



# 同朋新聞

どうぼうしんぶん

Dōbō Shimbun

7

Vol. 788 July 2023

Shinran  
500th

南無阿彌陀仏  
人と生まれたことの意味をたずねていこう



慶讃特設サイト 検索

発行所  
真宗大谷派宗務所  
代表者 木越 渉  
編集/東本願寺出版(真宗大谷派宗務所出版部)  
〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る  
TEL.075-371-9189(東本願寺出版)  
購読料 無料  
送料 1部1カ年1,300円(部数により変動)  
振替口座番号 01000-6-27404  
加入者名 東本願寺出版部

CONTENTS

2・3面

【慶讃法要法話抄録】  
＜第2期：4月29日＞

池田勇諦氏 本多弘之氏



4・5面

2023年宗会 招集



6・7面

特集

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・  
立教開宗八百年慶讃事業  
子どものつどいin東本願寺



8面

親鸞聖人にであう  
第12回

9面

聞 今月の法話 第33回

11面

第350回 蓮如上人御影道中  
ほか

九六一(昭和三十六)年の宗祖親鸞聖人七百御遠忌を契機として、現代に「真宗」を回復するという願いから、同朋会運動という開法の活動がスタートしました。爾来、大谷派なる宗門は同朋会運動をいのちとする宗門であるという、この信念のもとにその運動が推進されてきたのです。

ところが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、開法の間人と人が失われ、誠に惨澹たる実情です。

しかし、だからこそ、今私たちがしなければならぬことは、いったい何なのか。私は、あらためて同朋会運動の原点、同朋会運動の精神に回歸し、そこから再出発することであると強く感じています。

同朋会運動を提唱された当時の、訓覇信雄宗務総長は、同朋会運動の果たさねばならない三つの課題についてよく話をされました。一つ目は、「実存の回復」です。それは主体の獲得として獲得の問題、入信の問題です。常に状況に流されていくしかないような私たちにあって、まことの主体を獲得する、私を賜るといふことは、根本的な課題といわなければなりません。

親鸞聖人は、七高僧の一人として仰がれた天親菩薩の「世尊我一心」(『無量寿経優婆塞舎願生偈』真宗聖典「三三五頁」といふ言葉)を深く心にとどめられました。「世尊我一心」とは、我があつて一心帰命することなのだと。ですから、我と一心は切り離せない。自我なる主体から、「一心なる主体」への転換が私たちの上に起こる、そういう出来事です。

二つ目は、「僧伽の回復」です。二つ目の課題である「実存の回復」は、個人という視点からの課題ですが、僧伽の回復は、教団という視点からの課題です。僧伽とは、仏・法・僧の三宝の「僧」にあたります。仏法に基づいた出会い、人間の共同体のことです。言い換えれば「同朋社会」を生きているということ。訓覇先生は、われわれの日常生活のただ中に、教法を中心とした生き方を開くものが同朋会運動の大切な課題なのだとはいわれました。

三つ目は、「近代の超克」です。これは時代社会という視点からの課題です。近代を超越

え、克服する。近代の課題が解消して初めて現代といえますが、それが未解決のままであれば、現代も近代といわれる。その意味で近代は、現代の前身といえます。

その中身は、人間中心主義、理性至上主義です。科学技術の驚異的な進展、それによって私たちは経済の発展を追求してきました。その結果、環境破壊はもとより、いに人間破壊にまで至ったのです。そのしるしに現代の状況は「殺」、殺す、「偽」、偽り、だます、「まかす」。この「殺」と「偽」の二文字で象徴されるような時代社会を展開しているのではないのでしょうか。真理に對する私たちが人間の傲慢さ、これに光を当てていくということがなかったら、人類に未来はないといわなければならぬでしょう。

この三つの課題をよくよく吟味する時、まず申し上げたいことは、私たちの日頃の開法のあり方です。私たちのあり方からすると、この三つの課題もあまりピンとこないのではないのでしょうか。

私たちの日頃の開法のあり方を率直に振り返った時、開法のご縁に遇いながら、仏法に遇っていない。それは、仏法を聞くということ、私を「私事」にしてしまっているということ。単なる個人の胸の中の事柄だと、自分の内心に閉じ込めてしまっているのです。だから、仏法の力がまったく見えないし、表れないし、感じられないのです。自分さえ聞かせてもらって、喜んでいればよいのだというあり方では、仏法を聞くという

ことが、現代の問題に伝えてくださっている大事な光だということ。一向に明らかにならない。そのことが強く感ぜられます。

開法は、単なる個人の問題にとどまらない。個人と世界を貫く問題、それを問う、聞く、それが開法なのです。それゆえ、親鸞聖人の「同朋精神」に目覚める、帰る、そのことに尽くされるのです。「信心獲得」「僧伽の回復」「近代の超克」という三つの課題も、親鸞聖人の「同朋精神」に帰るといふことです。同朋とは、同一のいのちの真実、南無阿弥陀仏につながる根源的な連帯に気づくこと、帰ることです。「同一に念仏して別の道なきがゆえに。速く通ずるに、四海の内みな兄弟とするなり」(『教行信証』真宗聖典「二八二頁」といふ言葉)があります。この一点が明らかにされること、個人に限り、個人的にも、世界的にも、人間が真に出遇うということは私たちに開かれてこないのである。

ですから、個人と世界を貫く問題に親鸞聖人の「同朋精神」の生き方が見事に応えてくださっているのです。私たちはこの「同朋精神」を道として生きる、そのことに尽きるのであります。

その切り口として掲げられたのが、この慶讃テーマ「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」です。私にはそれは、金子大榮先生の「生まれて生きるのは、本当の自分に出遇うため」という言葉が思い起されまします。

今回の慶讃法要に遇わせていただいたことによって、まことの開法、本当に正しく仏法を聞きとどめるという、この姿勢を確立するということが、私は「法要に遇わせていただいた所詮であり、親鸞聖人に対するまことの仏恩報謝ということになるのではないか」と強く感ずるところです。

その切りの口として掲げられたのが、この慶讃テーマ「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」です。私にはそれは、金子大榮先生の「生まれて生きるのは、本当の自分に出遇うため」という言葉が思い起されまします。

今回の慶讃法要に遇わせていただいたことによって、まことの開法、本当に正しく仏法を聞きとどめるという、この姿勢を確立するということが、私は「法要に遇わせていただいた所詮であり、親鸞聖人に対するまことの仏恩報謝ということになるのではないか」と強く感ずるところです。

2023年4月29日

# 宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要 (第2期結願) 法話

三月二十五日から始まった宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要は、四月二十九日に第二期の結願を迎えました。先月に続き、阿彌陀堂、御影堂で話された法話の抄録を掲載します。



九三頁)という和讃があります。この和讃は、親鸞聖人が曇鸞大師を憶念しながら作られた和讃です。

南無阿弥陀仏には無碍光という、障りを障りとしないうような大きな光の功徳を表す名があり、その光によって我々凡夫に如来回向の信心を賜ることができると表現されています。これによってただだけ煩惱が奮起しようと、その煩惱がたちまち「菩提のみず」となるというのです。そして、その功徳がとけるといふことを表した「罪障功徳の体」となる。こおりとみずのことくにてこおりをおおきにみずおおし、さわりをおおきに徳おおし(同)という和讃が続きます。

我々は常々、罪や障りというものに人生を妨げられて生きています。この罪障が南無阿弥陀仏一つにおいて転じられるということ。水と水の関係に喩え、水が多ければ多いほど水が多いうように、障りが多ければ多いほど功徳も多いと表現されています。このようにいわれていることはどういふことなのでしょう。

さらに続いて「名号不思議の海水は、逆さの屍骸もとどまらず、衆悪の万川帰し

ぬれば 功徳のうしおに一味なり(同)という和讃があります。天親菩薩の『浄土論』から曇鸞大師がいだかれた五種の不思議の中に、仏法不思議ということがありますが、親鸞聖人はそれを名号不思議といたされ、海のうしおに喩えられます。「逆さ」とは、犯してはならないといわれるような罪を犯してしまう罪深い存在のことです。しかし、その海に投げ出されたならば、その屍骸は跡形もなく消えてしまふと。そして、どんな悪があるうとも、川が海に流れ込めば、いつの間にか海そのものになってしまふ。名号のはたらきにおいて、ただだけ罪があるうと、とれだけ自我が強がるうと、そういうものをすべて解体するようにはたらき、南無阿弥陀仏にあることを海のうしおに喩えられます。

また、「讃阿彌陀仏偈和讃」に「清浄光明ならびなし 遇斯光のゆえなれば 一切の業繋もぞこりぬ 畢竟依を帰命せよ」(真宗聖典「四七九頁」といふ和讃)があります。阿彌陀如来の清らかなる光の明るさは、この世にあるような光では及びがつかない。この光に遇つことにおいて、どのような罪業があろうと、そういうものがすべて除かれる。いのちが本当に困った時、何を依りどころにするのか。南無阿弥陀仏を本当の依りどころにするということがはつきりすれば、それは畢竟の依りどころとなるという和讃です。

私は、幼い頃の戦争体験を経て、戦後のいのちを生きていくことができました。国として信頼していたはずが、戦争に負けて、国がなくなりました。そして、新しく国が立ち

上がったのです。国というもののさへも滅びる。そういうことがこの世にはある。すべては有限のものでしかない。それに対して畢竟依ということがあるのです。

「無碍光の利益」とは、先ほどご和讃を引きました。親鸞聖人は南無阿弥陀仏の利益によって本當に依りどころを信ずることが成り立つのだとおっしゃいます。南無阿弥陀仏の中に本願力がはたらいて、その力が衆生に信ずるようになさる。そういう力を持っている。「威徳廣大」とは、信心が威徳廣大であるということに加えて、信ずることができるようにはたらきを名号自身が持っているのだ。名号不思議のはたらきというものにおいて、我々は畢竟依を信ずることができるようになります。そういう人生の中で金剛堅固という滅びない心とはどういう心でしょうか。それは、南無阿弥陀仏をいたたく心において、一切の衆生の南無阿弥陀仏は平等である。平等の心において、平等の名号が信じられているということ。

そういう信心について「金剛堅固の信心のさだまるときをまちえてぞ 弥陀の心光撰護して ながく生死をへだてける」(真宗聖典「四九六頁」といふ和讃)があります。私たちは亡くならざるを得ないのちを生きています。そういう人生の中で金剛堅固という滅びない心とはどういう心でしょうか。それは、南無阿弥陀仏をいたたく心において、一切の衆生の南無阿弥陀仏は平等である。平等の心において、平等の名号が信じられているということ。

に信ずることができるといふのは、大悲の光、無碍の光に照らされて、自分が罪惡深重の身ではない、そういう身であることが見えてくる。そして、そういう身であるけれども、大悲は撰取不捨(おさめ取つて捨てない)という大きなはたらきが常に我々にはたらき続けていることを信ずることができ。

不思議ですね。我々は、自分は少しはましな者であると信じていた。でも、畢竟依を信ずる、南無阿弥陀仏を信ずるならば、それは、はたらきによって、自分ほど(こ)までも有限で、愚かで、罪の深い身ではないということ。これを信ずる。同時に、そういう自分が大悲によって撰められること。

そういう信心について「金剛堅固の信心のさだまるときをまちえてぞ 弥陀の心光撰護して ながく生死をへだてける」(真宗聖典「四九六頁」といふ和讃)があります。私たちは亡くならざるを得ないのちを生きています。そういう人生の中で金剛堅固という滅びない心とはどういう心でしょうか。それは、南無阿弥陀仏をいたたく心において、一切の衆生の南無阿弥陀仏は平等である。平等の心において、平等の名号が信じられているということ。

に信ずることができるといふのは、大悲の光、無碍の光に照らされて、自分が罪惡深重の身ではない、そういう身であることが見えてくる。そして、そういう身であるけれども、大悲は撰取不捨(おさめ取つて捨てない)という大きなはたらきが常に我々にはたらき続けていることを信ずることができ。

不思議ですね。我々は、自分は少しはましな者であると信じていた。でも、畢竟依を信ずる、南無阿弥陀仏を信ずるならば、それは、はたらきによって、自分ほど(こ)までも有限で、愚かで、罪の深い身ではないということ。これを信ずる。同時に、そういう自分が大悲によって撰められること。

そういう信心について「金剛堅固の信心のさだまるときをまちえてぞ 弥陀の心光撰護して ながく生死をへだてける」(真宗聖典「四九六頁」といふ和讃)があります。私たちは亡くならざるを得ないのちを生きています。そういう人生の中で金剛堅固という滅びない心とはどういう心でしょうか。それは、南無阿弥陀仏をいたたく心において、一切の衆生の南無阿弥陀仏は平等である。平等の心において、平等の名号が信じられているということ。

まことの開法

池田勇諦氏 (真宗大谷派講師、三重教区西恩寺) 於：御影堂



え、克服する。近代の課題が解消して初めて現代といえますが、それが未解決のままであれば、現代も近代といわれる。その意味で近代は、現代の前身といえます。

その中身は、人間中心主義、理性至上主義です。科学技術の驚異的な進展、それによって私たちは経済の発展を追求してきました。その結果、環境破壊はもとより、いに人間破壊にまで至ったのです。そのしるしに現代の状況は「殺」、殺す、「偽」、偽り、だます、「まかす」。この「殺」と「偽」の二文字で象徴されるような時代社会を展開しているのではないのでしょうか。真理に對する私たちが人間の傲慢さ、これに光を当てていくということがなかったら、人類に未来はないといわなければならぬでしょう。

この三つの課題をよくよく吟味する時、まず申し上げたいことは、私たちの日頃の開法のあり方です。私たちのあり方からすると、この三つの課題もあまりピンとこないのではないのでしょうか。

私たちの日頃の開法のあり方を率直に振り返った時、開法のご縁に遇いながら、仏法に遇っていない。それは、仏法を聞くということ、私を「私事」にしてしまっているということ。単なる個人の胸の中の事柄だと、自分の内心に閉じ込めてしまっているのです。だから、仏法の力がまったく見えないし、表れないし、感じられないのです。自分さえ聞かせてもらって、喜んでいればよいのだというあり方では、仏法を聞くという

ことが、現代の問題に伝えてくださっている大事な光だということ。一向に明らかにならない。そのことが強く感ぜられます。

開法は、単なる個人の問題にとどまらない。個人と世界を貫く問題、それを問う、聞く、それが開法なのです。それゆえ、親鸞聖人の「同朋精神」に目覚める、帰る、そのことに尽くされるのです。「信心獲得」「僧伽の回復」「近代の超克」という三つの課題も、親鸞聖人の「同朋精神」に帰るといふことです。同朋とは、同一のいのちの真実、南無阿弥陀仏につながる根源的な連帯に気づくこと、帰ることです。「同一に念仏して別の道なきがゆえに。速く通ずるに、四海の内みな兄弟とするなり」(『教行信証』真宗聖典「二八二頁」といふ言葉)があります。この一点が明らかにされること、個人に限り、個人的にも、世界的にも、人間が真に出遇うということは私たちに開かれてこないのである。

ですから、個人と世界を貫く問題に親鸞聖人の「同朋精神」の生き方が見事に応えてくださっているのです。私たちはこの「同朋精神」を道として生きる、そのことに尽きるのであります。

その切り口として掲げられたのが、この慶讃テーマ「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」です。私にはそれは、金子大榮先生の「生まれて生きるのは、本当の自分に出遇うため」という言葉が思い起されまします。

今回の慶讃法要に遇わせていただいたことによって、まことの開法、本当に正しく仏法を聞きとどめるという、この姿勢を確立するということが、私は「法要に遇わせていただいた所詮であり、親鸞聖人に対するまことの仏恩報謝ということになるのではないか」と強く感ずるところです。

その切りの口として掲げられたのが、この慶讃テーマ「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」です。私にはそれは、金子大榮先生の「生まれて生きるのは、本当の自分に出遇うため」という言葉が思い起されまします。

今回の慶讃法要に遇わせていただいたことによって、まことの開法、本当に正しく仏法を聞きとどめるという、この姿勢を確立するということが、私は「法要に遇わせていただいた所詮であり、親鸞聖人に対するまことの仏恩報謝ということになるのではないか」と強く感ずるところです。



### オープニング

供灯・供華・供香の後、「ちかい」を皆で唱和しました。引き続き「開催宣言文」の朗読があり、大谷暢裕門首からあいさつがありました。



### 大谷暢裕門首あいさつ

皆さんと尊い縁の中で会えたこと、とてもうれしく思っています。ライブ配信を見てくれているお友だち、いつの日かきっとみんなも東本願寺に来てくださいね。

私は日本で生まれて、1歳の時にブラジルに渡りました。皆さんはブラジルという国を知っていますか？ 遠い国です。63年という長い間、ブラジルで生活をして、8年前に日本にきました。今もよく思い出すのは、小さい頃、お寺で開かれていた日曜学校のことです。日曜学校では、「正信偈」をお勤めしたり、お話を聞いたり、缶蹴り、縄跳び、鬼ごっこ、いろいろな遊びをしました。みんなで集まってサンドイッチやおいしいおやつを食べたりして、とても楽しい時間をたくさん過ごしたことを今でも覚えています。日曜学校で会うみんなとは、すぐにお友だちになりました。そして、自分の知らなかった多くのことを教えてもらいました。あらためて、仏さまの前で出会う機会が大切だったと思います。今はその友だちともなかなか会えないのですが、どうしているのかなと思ひます。直接会えなくても、思いを伝えることができる。それが今日のテーマ「であう つながる ともにある」ということだと感じます。友だちのことをブラジルでは「アミーゴ」、英語では「フレンド」と言います。皆さん、今日は、一緒に来たお友だちや初めて会ったお友だちとこの東本願寺で楽しく遊んでください。ありがとうございます。Muito obrigado. Thank you very much.



### おつとめ

表白の朗読に続いて、参加者、スタッフ全員による「正信偈」の声が御影堂に響きました。



### 帰敬式

おつとめに続いて、大谷暢裕門首の剃刀による帰敬式が執り行われ、20人が受式。その後、藤井真隆さん(大阪教区)による「共命鳥」をテーマにした帰敬式法話がありました。



### 東本願寺を知ろう!

「見て、触れて、東本願寺を知ろう!」をテーマに、御影堂では、両堂の仏具をみかく「おみかき体験」、御仏供に実際に触れる「御仏供に触れてみよう」、普段入ることができない内陣を特別に見学できる「御影堂内陣見学」が、諸殿をはじめとした5つの建物ではシールを集めてクイズに挑戦する「シールラリー」がありました。



2023年 5月5日  
宗祖親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃事業

# 子どものつどい in 東本願寺 開催

であう つながる ともにある

5月5日、「であう つながる ともにある」をテーマに、催され、約4,000人が真宗本廟に集い、zoomでつあたたかな日差しが降り注ぐ中、境内に子どもたちの笑顔とお念仏があふれる一日となりました。

慶讃事業「子どものつどい in 東本願寺」が開ながる子ども会では12会所が参加しました。の笑顔とお念仏があふれる一日となりました。

### ZOOMでつながる!

オンラインでのおつとめ、つどいの中継のほか、子ども会同士がゲームなどを通して交流しました。



### キャラクター

東本願寺キャラクターの鸞恩くん、あかほんくん、蓮ちゃんが3年ぶりに登場! ほかにも、ゴボちゃん(大垣教区)、千鶴ちゃん(名古屋教区)、ブットンくん(大阪教区)とのふれあいを楽しみました。



### エンディング

佐賀枝夏文さんのおはなしの後、映像とともに1日を振り返り、「♪回向曲♪」をみんなで歌いました。木越渉宗務総長の挨拶では「親鸞聖人が一番喜ぶこと、それはお念仏を称えることだと思います。みんなで親鸞聖人に「南無阿彌陀仏」をプレゼントしましょう」と呼びかけ、お念仏の声が何度も堂内にこだましました。

同朋会館では昼食のお弁当と一緒に食べました。「いっぱい遊んだから、おなかペコペコ!」とあつという間にお弁当は空っぽに。食前・食後のことばも唱和しました。

### 昼食



お弁当にはキャラクター入りのおはしがセットに

### 遊ボース

北海道から九州までの教区・エリア、関係団体などによる32のブースが設けられました。「次はあのブースに行こう!」「全部回りたい!」「一緒に遊ぼう!」「また来てね」。エンディングが始まるぎりぎりまで子どもとスタッフが全力で遊ぶ姿がありました。同朋会館に設けられた「サガエさんの部屋」では、子どもも大人もほっこり。真宗本廟全域が子どもたちに開放されました。



### 慶讃事業で取り組まれた刊行物の紹介

7月3日発売! 『真宗児童聖典』 1,100円(税込) A5判 220頁(予定) ご注文・ご予約は東本願寺出版 (TEL:075-371-9189) まで

7月19日発売! 『親鸞聖人』 1,980円(税込) 265mm×380mm 17枚組

「子どものつどい」をはじめ、さまざまな青少年教化事業が重点施策として取り組まれてきました。慶讃法要を機縁として発行される刊行物をご紹介します。

無償 7月末の寺院定期直送便にて全寺院にお届けします!

『真宗児童聖典』 『親鸞聖人』 『南無阿彌陀仏』

2022年度版 『青少年教化指針』

追加のご注文は 真宗大谷派青少年センター (075-354-3440) まで



第12回

「共」

「われら」の名のり

親鸞聖人は越後において、法然上人よりいただかれた「念仏して阿弥陀さんにすくってもらおうしかない」という「本願念仏」の教え(『歎異抄』第2条)を、自己の内深く確かめる日々を送っておられました。そしてその受けとめを「浄土に生まれ往く者となるためには、念仏のほかにはいかなる学問も必要ではない」とまでおっしゃいました(『歎異抄』第12条)。さらには、聖人が「いなかのひとびと」と呼ばれた、厳しい環境の中でその日を懸命に生きる人たちの出会いを通して、念仏を称えながら生きる「生活」そのものが「行」であるとの気づきをいただかれたのではないのでしょうか。

聖人は、幼少期を都の貴族の家に生まれた者として過ごし、9歳で出家した後は比叡山の僧侶として、まさに「出世間」の生活を送られました。厳しい修行に耐えられたとはいえ、「汗して働くことで食を得る」という経験はあまりなかったことでしょうか。野菜や米を作る苦勞も、鳥や魚を捕まえてはその生命を食材に変えていくという実体験も恐らくなかったのではないのでしょうか。

人間はつながりの中でしか生きていけない弱い存在であり、他のいのちを奪わなければ生きていけないという悲しい存在であることを「いなかのひとびと」の生活に見出されます。そしてその人たちを決して「かれら」と呼ぶことなく「われら」と呼ばれたのです。それは自己の現実を知らされた人の名のりなのでしょう。

# 親鸞聖人に であう

浄土真宗をあきらかにされた親鸞聖人。  
大谷中・高等学校「京都」で  
生徒とともに学ばれている乾さんと、  
**中高生の素直(リアル)な問い**を手がかりに、  
「人と生まれたことの意味」を  
親鸞聖人のご生涯に学んでいきます。



乾 文雄  
京都教区近江第5組  
正念寺住職  
大谷中学・高等学校講師

**親** 鸞さんはな、流罪の地で、その日一日をただ懸命に生きる人に出あつてん。学校も行けなくて、文字も読めない人たちがいっぱいいてん。そういう人に出あつてな、なんだかんた言つても貴族出身で出自とコネに守られて恵まれていた自分に気づかはるねん」

「そこで、これこそが真実の教えで万人に通じると信じていたお念仏の教えは、この『いなかのひとびと』の求める教えと成り得るのかという問いに出あうねんけどな、それ以上に大事なのは、いったい自分って何やという問いに出あつたことやろつな」

「話は変わるけど、小学生の頃、学校から帰ってくる途中、ある家の倉庫の軒先に、羽をむしり取られた鶏が首をくくられてぶら下がつてん。みんな、それを見たらどう思うっ？」

「残酷!」「警察に電話する!」

「そうよな。でも、私はただ単純に『ええな〜』と思つてん。なんでかわかる?」

「それはな、当時、多くの家で鶏を飼つてた、その鶏が卵を産む役目を終えたら、首を絞めて血を抜いて家の人みんなで食べはつてん。だから『今日この家はすき焼きや〜』とうらやましかつてん」

「すき焼きつて、ふつう牛肉でしよ?」

「あのな、今から50年くらい前の話や。牛肉を家で食べるなんてめつたにない。そんな4年に1回のオリンピック級のできごとや。家に帰つて、一目でそれとわかる竹の皮に包まれたお肉が、当然もらい物やけど置いてあつたりしたらもう大変! そのあと何が始まるかわかる? 父親が近所に有線(電話)して、きょうだい集合!!」

「姉が3人いたんやけど、長女は〇〇さんとこ行つて玉ねぎと白菜をもらつてこい。次女は△△さんとこの畑行つてねぎを抜いてこい。ついでに鶏小屋から卵ももらつてこい。三女は□□さんとこの裏山に行つて、大き目のシイタケを5つほど取つてこい。大丈夫、全部ちゃんと言つてあるからと」

「ほんで小さかつた私は母親とお豆腐屋さんに行つて、焼き豆腐と糸こんにゃくを買つてくる。夜になって『いただきます』を言う頃には、村中で『今晚、乾さんとこすき焼きやで〜』というのがばればれやねん」

「今ではな、今晚すき焼きやとなつてもな、お家の誰かがスーパーカーンかに行つて、お肉も野菜も卵も全部手に取つてかごに入れて、ピツとしてもらつたらそれで材料が揃つて、ご近所に知られることもなくおいしいすき焼き食べられるやんか。ご近所の助けを借りなくてもな」

「ナリに考えてほしいのはな、わたしが普段食べている物はすべて、つい最近までいのちのあつた物ばかり。いのちのなかつたものを食べることでできないのが人間。生活が便利で豊かで快適になると、その現実が見えなくなる。つまり、見えないところで誰かにやつてもらつてんねん。私のいのちをつなぐためのいのちを育てるといふことも奪つていふことも」

「だからな、いただきます言つて、手をあわすのはほんまに大切なこととか言いつつ、私もそんな大切なことすらすぐに忘れるねん。だから、こつやつてみんなと確認してんねん」

親鸞聖人は「愚かであることに目覚めて念仏しなさい」という師の言葉を胸に、与えられた現実を受けとめ、「いなかのひとびと」と共に「同行」として生きていかれました。

南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう

第33回

# 死を見つめると 生が問われる

岐阜高山教区 第15組 安楽寺 <sup>は</sup>羽部 <sup>れい</sup>玲子



今月の  
法話

「仏法は、聴聞にきわまることなり」(蓮如上人御一代記聞書)と教えられているように、真宗門徒は昔から仏法聴聞を大切にしてきました。日々の生活の中で、仏さまの教えを聞いていただくことを願いに、毎月一話ずつ掲載します。

百二歳の祖父を看取った時、側にいた医師から、「ここを手で押さえてください。脈がわかるでしょう。この脈がうたなくなったら、教えてください」と、私の手を祖父の手首にあてて、そう言われました。

祖父の脈が指先から伝わってきました。しかし、その脈はだんだんと間隔が長くなり、止まったかと思うと、またかすかに脈をうつ。そして、ついに脈を感じられなくなりました。医師にそのことを伝えると、脈と瞳孔を確認して、「ご臨終です」と言われました。この時、「人とは、こうしていのちが終わっていくのだ」ということを強く知らされました。

毎日、新聞やニュースなどから「交通事故で、一人の方が亡くなりました」「〇さんが亡くなりました」などと、人の死についての情報が流れてきます。また、火事や災害等が発生すると、「〇人の死亡が確認されています」と報道され、「そうなんだ」「気の毒だった」「大変なことだった」という思いは起きますが、それはどこかの誰かのことであり、他人事です。「亡くなる」「つまり「死」ということを目にした耳にしたりしても、自分の死とはなかなか結びつかないのです。自分もいつか死ぬ身であることはわかっていても、その死は、「いつか」であって先のこととなります。

私自身、日々の生活の中で、やらなければならぬことがあっても明日行えばよいか、忙しさが続くこと、このことは落ち着いたらやろうと、後に引きのばすことが多々あります。それは、明日も明後日も生きていくという当たり前としているからです。しかし、そんな中でも身体の痛みが続いたりすると、「どこか悪いんじゃないか」と思い、「死」が頭をよぎります。また、健康診断を受けた後に「再検査」という通知を受けると、心が動揺し、自分自身の「死」を一気に近く感じ、無関心ではいられなくなります。

そして祖父の、だんだん遠のいていく脈を指先で感じながら「人のいのちを終わっていくものなのだ」という、あの時に感じた思いがよみが

えってくるのです。

「死を見つめると 生が問われる」

これは、東本願寺(真宗本廟)の外堀周辺に設置されている「行灯法語」に書かれていた言葉です。

自分自身の死についてのみではなく、大切な人や身近な人の死に出会うことによっても、必然的に「死」への意識は強くなり、いのちをいただいで生きていくということに気づかされ、自分の「今」を見つめるきっかけとなった言葉です。

「死」は不安や悲しみなど、さまざまな苦しみをとまなうもので、また、「いつか」ではなく、いつでもおとずれるものでもあります。そして、誰にも避けることはできないものです。不慮の事故もあります。突然病に倒れることもあります。

人のいのちは、日々、にぎやかに、かぎりとおもひ、時々、ただいまやおわりとおもうべし。  
(二念多念分別事「真宗聖典」九三七頁)

### 意識

人のいのちは今日限りだと日々思い、また、人のいのちはすぐ終わりと、絶えることなく思い続けることが大切である。

「人のいのちは今日限り」と受け取

ることは難しいことで、なかなか

「死」が我が身の事実とはなつてきません。私たちは、「死」をどこかに遠ざけ、生きていくということ

とをいつも前提とし、「得か損か」「都合の良いことか悪いことか」「好きか嫌いか」「勝つか負けるか」などというところに目を向けながら日々を送っているのが常

です。しかし、「死」を見つめることによつて、限りあるいのちをいただいで生きていくことに気づかされ、「自分の生き方はこれでよいのか」「本当に大切なことは何か」に目を向けることがはじまり

です。そこから、一日一日がかけがえない日々となり、今の生き方に真剣に向き合うことにつながるのではないのでしょうか。

祖父の死から久しくなりますが、その死から、「今の生き方としていねいに向き合い、今を大切にしたい」という願いが、ずっと私にかかれてきたのだと思います。その願いを受けとめ、「自分自身の生き方を問うていけ」と、そう呼びかけられていることに耳を傾けていきたいと思っています。

## 〈夏休み特別企画〉無料ラッピングキャンペーン

期間: 7月1日(土)~8月31日(木)

東本願寺出版発行物を、  
無料ラッピングいたします。  
夏休みに、親鸞聖人の教えを  
子どもたちに届けませんか?

包装にお時間を頂戴するため、発送まで1週間程度要します。  
お申し込み お早めにお申し込みください。

①電話 ②FAX ③メール ④TOMOぶっく

※①~③でお申し込みの場合は、「ラッピング希望」であることをお知らせください  
※④でお申し込みの場合は、備考欄に「ラッピング希望」と記載ください



## 5つのテーマで確かめる浄土真宗

### 望郷の問い—永遠の人 親鸞—



伊東慧明 著  
文庫判 244頁  
定価: 935円(税込)  
人間とは何か。この根本的な問いを手がかりに、親鸞聖人の教え・浄土真宗を「人間・本願・念仏・信心・生活」の5つのテーマからひとつひとつ詳しく解説。

ご注文  
お問い合わせは

東本願寺出版  
HIGASHI-HONGANJI PUBLISHING

TEL:075-371-9189

詳しい書籍情報は

東本願寺出版

検索

真宗門徒として帰敬式(おかみそり)を受けましょう

東本願寺御用達  
**日下念珠店**  
 〒600-8174  
 京都市下京区烏丸通花屋町下ル  
 電話 (075)351-6325  
 フリ-FAX 0120-89-5255  
 定休日: 日曜日

# 慶讃法要参拝の思い出

桜満開、晴天の日、慶讃法要団体参拝に参加しました。行きのバスの中で責任者の住職より「絶好のお参り日和に恵まれました」との挨拶。予定通りに本山に到着しました。

真宗落語を観覧して親鸞聖人のことを面白く学びました。お斎は白書院でいただきました。普段足を運ぶことのない場所に入ることができてよかったです。

午後からはいよいよ法要。私たちは御影堂での参拝です。厳かな世界に触れ、身が引き締まる思いでした。阿弥陀堂・御影堂が一つになった「正信偈」のお勤めは、なんとも形容しきれないものがありました。およそ2時間の法要はあっという間でした。

最後にバスの中で住職より、「東本願寺に行ってきた、で終わるのではなく、真宗門徒として日々の生活の中に活かしてください」とのお言葉を賜りました。無事に帰ってこられてよかったです。私はまだ真宗本願報恩講に参拝したことがないので行きたいと思っています。

(渋谷美紀子さん(65歳)岐阜県)

◆慶讃寄席、面白いのでリピーターになって3回も聞きに行きました。(京都府)

◆音楽法要にご縁をいただき、詠んだうたです。  
「宗祖たふ、音楽法要に唱和する 得がたきご縁ではじまる八通路」(石川県)



◆堂内が一体となって勤まった「正信偈」。その中の一人になれたことに感謝の気持ちでいっぱい。現在放送されている大河ドラマ「どうする家康」の中で流れてきた「正信偈」、つらい時代を生きた方々の「南無阿弥陀仏」の尊さを感じました。(愛知県)



3月25日から4月29日まで勤まった宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要。読者の方から寄せられた感想をご紹介します。



◆法話に心を動かされ、全国から集まってこられた方々の熱意にも感動した一日でした。今後も参拝できる時にはぜひ行きたいと思っています。(岐阜県)

◆娘と二人で参拝しました。両堂でのお勤めはただただ素晴らしいかったです。その場にいられたことが何よりと思いました。留守番をしてくれた家族や、朝早くから夜遅くまで働いてくださったスタッフの方々にも感謝しております。(東京都)



◆御堂の階段がのぼりやすくなってよかったです。(愛知県)

◆YouTubeの同時配信で同朋会の皆さんとお参りをすることができました。同朋唱和の音が心の奥まで沁み通り、晴れやかな気持ちになりました。直接足を運べたらという気持ちもありましたが、満たされた時間になりました。(福島県)

◆『同朋新聞』に掲載されていた法要次第を旅行会社からのしおりに貼って法要に参拝しました。(富山県)

◆最高のひと時でした。(三重県)

◆慶讃法要に参拝し、帰宅したら『同朋新聞』が届いていました。思い出しながら読んでいます。(石川県)

◆ありがたいことでした。一番の宝物になりました。(滋賀県)

◆御影堂・阿弥陀堂の荘厳さに圧倒されました。(新潟県)

◆3月25日法要初日に参拝しました。貴重な体験ができ、感謝でいっぱいです。(北海道)

◆お世話になっているお寺の坊主さんと二人で本山にお参りさせていただいて、亡き義父母にお会いさせていただきました。身が引き締まる思いでした。(愛知県)

◆期間中の奉仕団に参加しました。御影堂門に上ったのは初めてで、感動しました。(宮城県)

◆渉成園でのカフェ、日本酒の飲み比べではおつまみが意外な組み合わせで面白かったです。何時間でも居ることができる心地よい場所でした。(京都府)



絵は左から右に向かって「混沌とした時代」「比叡山」「浄土(本願念仏の救い)」という流れで描かれている。

## 虎

戦乱や災害、飢饉など混乱と荒廃に満ちた時代を「虎」「カラス」「干からびた植物」で表現。



## 親鸞聖人

9歳から20年間厳しい修行をしたが迷いの霧が晴れることはなく、山を下りる決心をする親鸞聖人。



## 池とオシドリ

本願念仏のみ教えを「池の水」に、法然上人と親鸞聖人を「オシドリ」で表現。法然上人とともに教えに出遇われた親鸞聖人を表現。



慶讃法要を機に、僕が感じた親鸞聖人を作品で表現するご縁をいただきました。お一人お一人の心の中にも親鸞聖人像があるのではないかと思います。それと、僕の作品に響き合う所があるなら、こんなにうれいことはないと思います。

ます。

実際にギャラリーを見せていただき、光が入って明るい所を展示場所にしました。1段ずつ昇り降りする階段を展示場所にしたのは、親鸞聖人の歩みを表現したいという思いを込めています。その歩みの先に「南無阿弥陀仏」を展示しています。

一番悩み、時間を費やしたのは親鸞聖人の90年の生涯のどの場面を作品にするかでした。お寺で聞いたお話をもう一度学び、聖人はどんな時代を生きたのかを調べ、あらためて親鸞聖人のご生涯をたずねました。聖人が比叡山を下りると決意され、法然上人との出会いによってお念仏に出遇われた、そのことが僕のところにまで届いている「南無阿弥陀仏」の原点だと思い、作品にすることを決め、約1カ月で作品が完成しました。

— 早川さんにお聞きしました —



慶讃テーマ館「親鸞画展」で展示された早川鉄兵さん(切り絵作家)の作品が法要後も参拝接待所ギャラリーで常設展示されることになりました。法要時と同じく、ギャラリー1階から地下1階へ向かう階段壁面と、地下2階(スロップつきあたり)に展示されています。ご上山の際はぜひゆっくりとご覧ください。

慶讃テーマ館「親鸞画展」で展示された早川鉄兵さんの作品が常設展示に

## 月刊『同朋』—新連載が続々スタート—

7月号から新連載「書いて学ぶ 親鸞のことは 歎異抄」がスタート。8月号以降もバラエティに富んだ新連載がスタートします。ぜひご購入ください!

年間購読(4,200円・税込・送料込) 単号(400円・税込・送料別)

ケアがひらく未来

東本願寺出版ホームページにて『同朋』のインタビューや対談などを公開中。ぜひご覧ください!

## 『同朋』からさまざまな書籍が生まれています

〈一部をご紹介〉

ご参拝のお土産に! 『お東さんの日めくりカレンダー』 行灯法語

1も好評発売中! 『仏教のミカタ2』 1- 仏教から現代を考える31のテーマ

好評につき重版! 『仏教ゆかりの植物図鑑』

東本願寺出版(編) 縦190mm×横110mm 17枚綴り 770円(税込)

武田定光ほか30名(著) 新書判 260頁 935円(税込)

松下俊英(文) 大島加奈子(絵) B5変形判 80頁 1,210円(税込)

山陽・四国教区が教区改編の合意



山陽教区 教区門徒会の様子

宗門では、社会環境が激変していく時代にあって、将来にわたってお念仏の教えを手渡していく教化・財政の基盤づくりのため、全国の教区を17教区に改編する「教区及び組の改編を進めている。山陽教区と四国教区では、5月10日開催の地方協議会にて教区改編の合意がなされ、同月18日、19日に両教区の教区会及び教区門徒会にて改編合意事項が全会一致で議決された。合意書は、新教区の名称を「山陽四国教区」「新教区発足を「2025年7月1日」、教務所の設置場所を山陽教務所とし、現四国教務所を新教区の教務支所とするなど、全7項目について合意されている。山陽・四国教区では、2021年6月に第1回地方協議会を開催して以来、全13回の地方協議会の開催を経てこのたびの合意・議決に至った。

山陽教区と四国教区では、5月10日開催の地方協議会にて教区改編の合意がなされ、同月18日、19日に両教区の教区会及び教区門徒会にて改編合意事項が全会一致で議決された。合意書は、新教区の名称を「山陽四国教区」「新教区発足を「2025年7月1日」、教務所の設置場所を山陽教務所とし、現四国教務所を新教区の教務支所とするなど、全7項目について合意されている。山陽・四国教区では、2021年6月に第1回地方協議会を開催して以来、全13回の地方協議会の開催を経てこのたびの合意・議決に至った。

今後は、2025年7月の新教区発足に向け、具体的な準備が行われていく。



四国教区教区会・教区門徒会合同会議の様子

第350回「蓮如上人御影道中」―蓮如上人のご教化を体験する旅―



4月17日から5月9日まで、蓮如上人の御影(絵像)にお供しながら、京都の真宗本廟と福井県の吉崎別院を歩いて往復する「蓮如上人御影道中」が、今年、4年ぶりにほぼ従来通りの形で行われた。慶讃法要期間中の4月17日に真宗本廟を出発して23日に吉崎別院に到着。10日間の御忌法要を営み、5月2日に吉崎別院を出発。9日に真宗本廟に到着した。多くの参加者が「御影道中が元通りになって本当にうれしい」と喜んでいました。

は未来永劫、無量の衆生を教化なさる」と説いたという。これになぞらえて、蓮如上人の御影も未来永劫にわたって衆生を教化する指摘「蓮如さまは「これはただの絵画である」とは言わなかっただろう。われわれは蓮如上人の道中の真似をしたのではなく、室町時代の蓮如上人の道中における教化を、まさに体験したのだと言わざるを得ない。こんな尊い御仏事はそうそうあるものではない」と話した。太田さんはあわせて、道中に途中から付いてきた小学生の女の子のエピソードを紹介。女の子は「もうちよつと、もうちよつと」と結局、8キロ余りを歩き、最後に「大きくなったら必ずこれをやります」と言ったという。「未来永劫にこの素晴らしい御仏事が続くよう、ご協力をお願いいたします」と呼びかけていた。

今年350回目の節目の年。吉崎へ向かう下向の随行教導を務めた太田浩史さん(富山県)は、京都市のお寺に伝わる、お釈迦様に似せて描かれた御影の逸話を紹介した。お釈迦様は「私は80年の肉化身だが、この御影さま

今年350回目の節目の年。吉崎へ向かう下向の随行教導を務めた太田浩史さん(富山県)は、京都市のお寺に伝わる、お釈迦様に似せて描かれた御影の逸話を紹介した。お釈迦様は「私は80年の肉化身だが、この御影さま



(福井教区通信員 藤共生)

石川県能登地方を震源とする地震で被害に遭われました皆さまに心よりお見舞い申し上げます 真宗大谷派(東本願寺)

5月15日、木越渉宗務総長が石川県能登地方を震源とする地震で被災された寺院並びに門徒宅を訪問しました。寺院では関係者とともに被害状況を確認し、お見舞い申し上げます。また、上野武守能登教区第10組門徒会長宅では、被災後、壁の崩落や柱の損壊等の被害があったものの、倒壊したお内仏をいち早く修理されたお話を伺いました。さらに、能登教区第10組永誓寺において、木越総長から完忠教区会議長へ宗派見舞金200万円の目録が手交されました。下記の口座にて、災害救援金を募っております。皆さまの温かいご支援をお願いいたします。

【救援金口座】郵便振替口座番号00920-3-203053  
【加入者名】真宗大谷派 ※通信欄に「能登地震」とご記載ください

大阪教区

参議会議員 補欠選挙

鈴木順三参議会議員の辞職に伴う補欠選挙の結果、奥戸義成氏(大阪教区第14組願生坊門徒)が当選。

ご案内

詳しくは、真宗大谷派(東本願寺)ホームページ「法要・法話のご案内」まで  
もしくは、右のQRコードを読みこんでください。



真宗本廟(東本願寺境内) 京都市下京区烏丸通七条上る

- ◇ 晨朝(おあさじ) 【場所】阿弥陀堂及び御影堂 【時間】毎日7時～
- ◇ 晨朝法話 【場所】御影堂 【時間】毎日7時30分頃～ 約15分
- ◇ 真宗本廟法話 【場所】視聴覚ホール・大寝殿 【時間】通常10時10分～/13時10分～ 約25分  
速夜日(12・27日)13時10分～ 約25分 御命日(28日)9時30分～ 約15分  
※その他、時間・会場を変更する場合があります。
- ◇ 参拝接待所ギャラリー 【時間】9時～16時  
「親鸞聖人のご生涯」(常設展)開催中  
「非戦と平等の源流をたずねて」 開催中～7月26日

詳しくは、真宗大谷派ホームページまで

東本願寺 検索

しんらん交流館 京都市下京区諏訪町通六条下る上柳町199番地

真宗本廟(東本願寺)へご参拝の際には、ぜひ真宗教化センター しんらん交流館にお立ち寄りください。  
開館時間/平日 9時～18時 土日祝 9時～17時 休館日/毎週火曜日

- ◇ 7月の定例法話 【場所】1階 すみれの間 【時間】毎日14時～(7月12・27日は10時～) 動行後約1時間  
※毎週火曜日は休会、その他都合により休会する場合があります。
- ◇ 7月の東本願寺日曜講演 【場所】2階 大谷ホール 【時間】9時30分～11時 【講師】◆7月2日…休会◆9日…休会  
◆16日…休会◆23日…一郷正道(前京都光華女子大学・同短期大学部学長)◆30日…武田未来雄(教学研究所所員)
- ◇ 交流ギャラリー(1階) 【時間】開館時間に同じ 【期間】開催中～9月4日(月)  
「東本願寺の今昔」
- ◇ しんらん交流館 Tera School 【場所】1階 すみれの間 【日時】毎週月・金曜日 18時30分～20時30分 【対象】小学3年生～高校3年生 ※幼児教室もあります。 http://www.teraschool.jp

東本願寺いのちとこころの相談室 【TEL】075-371-9280  
【開室時間】毎週木曜日 13時～17時(祝日または休館日、その他行事日は閉室)

全国のお寺での取り組みや読みもののページなど、さまざまな情報を発信しています。

浄土真宗ドットインフォ

検索

『同朋新聞』電子版 7月号からは東本願寺ホームページからご覧ください

毎月東本願寺出版ホームページで公開してきた『同朋新聞』電子版。7月号からは東本願寺ホームページで公開します。毎月1日に更新。1年分を無料でご覧いただけます。



クロスワードパズルもメールで応募できます。ご応募をお待ちしています!



読者のお便り

大切に守り維持するお寺

滋賀県在住 男性(76歳)

私のお手次のお寺は、住職が不在になって40年ほど経ちますが、今日まで大切に守られ、維持されています。昔からお寺を中心に地域の行事が行われており、お寺との関係は親の代からずっと受け継がれてきました。月に2度、持ち回りで御仏供をあげ、お盆と報恩講の前にはおみがきに集まり、近くのお寺や教務所に協力していただきながら、法事や報恩講などの仏事を勤めています。また、世話方を中心にお寺の内外の掃除を年に何度も行っています。お寺のために自分たちができることを一生懸命して、皆でなんとか盛り上げていこうという気持ちを大切にしてきました。この思いを次の世代にも受け継いでもらえることを願っています。

お便り募集

宛先 Eメール shuppanshi@nissaihonkan.jp FAX 075-371-9211 TEL 600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る 東本願寺出版「同朋新聞編集係」紙幅の都合上、掲載時は添削・抜粋させていただきます。

入館状況については、研修部まで  
お電話でお問い合わせください。

# 2023年 真宗本廟奉仕のご案内

真宗本廟奉仕を機に、  
ぜひ「帰敬式」を受式ください。

## ◆真宗本廟おみがき奉仕団

2泊  
11月1日(水)~3日(金)

1泊  
11月1日(水)~2日(木)

真宗本廟報恩講を迎えるにあたって、  
阿弥陀堂や御影堂の仏具のおみがきを  
日程の中心とした奉仕団です。

申込締切 9月22日(金)

## ◆真宗本廟報恩講奉仕団

2泊  
11月20日(月)~22日(水)  
11月24日(金)~26日(日)  
11月27日(月)~29日(水)

1泊  
11月20日(月)~21日(火)  
11月24日(金)~25日(土)  
11月27日(月)~28日(火)

真宗本廟報恩講の法要参拝を  
日程の中心とした奉仕団です。  
※満館になっている場合があります  
ので研修部までお電話でお問合  
せください。  
(電話受付は各日9時から17時まで)

参加費 (2泊3日) 18,000円、米2kg(1升4合)または米代1,300円  
(1泊2日) 13,000円、米1.2kg(8合)または米代800円  
※上記は大人(15歳以上)の場合です。

【お問い合わせ】同朋会館・研修部 TEL:075-371-9185

・受け入れ状況などの情報は、同朋会館ホームページでご覧いただけます。  
・ご入館される皆様に安心してお過ごしいただけるよう、新型コロナウイルス感染症予防対策を実施し運営しています。  
・具体的な対策については、同朋会館ホームページよりご確認ください。



真宗本廟奉仕  
参加者の声を  
ご紹介

初めて上山し、見るもの聞くものが  
すべて新鮮で心があらわれる思いでした。  
これからも毎日念仏をし、  
すばらしい1日にしたいと思います。  
とても楽しい時間でした。(50代 女性)

今月号の『同朋新聞』を読んで、

## プレゼント付 クロスワードパズルを完成させよう!

「タテのカギ」「ヨコのカギ」それぞれの設問に答え、  
クロスワードパズルを完成させましょう!  
7月号の『同朋新聞』を読むと、ほとんどの答えがわかります!!

※答えはすべて「ひらがな」でお答えください。

### タテのカギ

- 「夏〇〇〇特別企画」で、東本願寺出版発行物の  
無料ラッピングキャンペーンを行います。(9面)
- 『親鸞聖人にてあう』親鸞聖人は、厳しい環境の中で  
その日を懸命に生きる人たちを「いなかの〇〇〇」と  
呼ばれました。(8面)
- 『親鸞聖人にてあう』今月のタイトルは、  
「共」-「われら」〇〇〇-です。(8面)
- 月刊『同朋』7月号から、  
新連載「書いて学ぶ し〇〇〇のこぼれ 歎異抄」が  
スタートします。(10面)
- 『子どものつどいin東本願寺』のオープニングで、  
「大谷〇〇〇裕門首」から挨拶がありました。(6・7面)
- 『子どものつどいin東本願寺』のテーマは、  
「で〇〇 つながる ともにある」です。(6・7面)

### ヨコのカギ

- 『子どものつどいin東本願寺』では、「東本願寺キ〇〇〇ター」の  
鸞恩くん、あかほんくん、蓮ちゃんが3年ぶりに登場しました。(6・7面)
- 『同朋新聞』電子版は、7月号から「〇〇〇本願寺ホームページ」で  
ご覧ください。(11面)
- 『望きよ〇〇〇〇-永遠の人 親鸞-』が発行されます。(9面)
- 『子どものつどいin東本願寺』では、  
『見て、触れて、東本願寺を知ろう!』をテーマに、  
「お〇〇き体験」や御影堂内陣見学などが行われました。(6・7面)
- 「石川〇〇〇〇〇方」を震源とする  
地震の災害救援金を募っています。(11面)
- 慶讃テーマ館「親鸞画展」の早川鉄兵さんの作品は、  
「参拝接待所ギャ〇〇-」に展示されています。(10面)
- 2・3面では、「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年  
きよ〇〇〇法要」、第2期の結願の法話の抄録を掲載します。
- 池田勇諦氏の抄録タイトルは、「まことの聞〇〇」です。(2面)

答え

A	B	C	D
1			2
		3	4
5	B		
	6	7	C
9		10	
11			12
			A

5月号のクロスワードパズルの答えは、  
A は  
B は  
C の  
D ひ

読者のこえ (4月号を  
読んで) ◆「親鸞聖人にてあう」「勝他・利養・名聞」はずっとサラリーマンを続けてきた自分には厳しいお言葉です。  
現役を降りた今、すっと腑に落ちました。(60代男性)  
◆クロスワードパズル、81歳で初めて解きました!(80代女性)

## チャレンジ! 正解者の中から抽選で5名様に「東本願寺出版オリジナル図書カード1000円分」をプレゼントします!

郵便はがきまたはメールにて、①「クロスワードパズルの答え」②「郵便番号」・「住所」・「氏名」・「年齢」・「電話番号」と③『同朋新聞』の感想や紙面に関する要望を添えて、下記までご応募ください。今月号の締め切りは7月31日(月)(当日消印有効)です。

メールでも応募できます!!

はがきと同様に必ず上記①②③を記入し、「件名」に「同朋新聞7月号クロスワード応募」と入力の上、  
higashihonganjishuppan@gmail.comへお送りください。



応募はコチラ

【ご注意】◆当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。◆個人情報保護法に基づき、応募いただいた情報は、本誌の発行に限り、本誌編集にのみ使用させていただきます。◆感想は「読者のお便り」に掲載する場合があります。  
◆本クロスワードパズルは、独自のルールに基づいて作成しております。

宛先 〒600-8505 京都市下京区烏丸通七条上る  
東本願寺出版「クロスワードパズル係」まで

## 編集室 だより

◇10年ぶりに真宗本廟で開催された子どものつどい。真宗本廟が一日中あたたかな空気に包まれていました。思い思いに真宗本廟を楽しんでいる子どもたちの姿、そして、「一緒に遊ぼう!」「来てくれてありがとう」と子どもたちに声をかけるスタッフの姿にたくさん出あいました。「ねえ、次はいつあるの?」私のお寺の子ども会から参加した4年生の子は、楽しくてあつという間だったそうです。

◇私が子どもたちとつどいに参加できたのは、たくさんの方々が子どもたちを大切に思う時と場が重なったから。「御仏事は決して終わることはない。今日は、次の50年後の慶讃法要のための第一歩を踏み出した日」。エンディングでお聞きした言葉を心に留め、このご縁に遇えた一人として、子どもたちとお念仏申す場を開き続けていきたいと思えます。(高月)

## 永田文昌堂

最新刊

親鸞伝と本願寺俯瞰  
——東西本願寺のちがいが——  
鎌田宗雲著 定価2750円(税込)

阿弥陀仏の願いと信心  
——大宇宙世界の時間と空間を超えて——  
柳月即勝著 定価2640円(税込)

歯科診療室の窓辺から  
——仏の心につつまれて——  
杉本光昭著 定価1650円(税込)

〒600-8342 京都市下京区花屋町通西洞院西入 TEL 075-371-6651 FAX 075-351-9031

東本願寺 門徒勤行 CD 2,970円(税込 / CDサイズ経本付)  
カセットテープ 2,530円(税込 / お経カード付)

読誦: 東本願寺御堂衆 【収録】正信偈草四句目下 / 仏説阿弥陀経ほか

真宗大谷派 DVD 2枚組 19,580円(税込)  
仏花の立て方  
真宗大谷派の立華について、本山様式にのっとり、実演と丁寧な解説で指導。  
監修: 平等明信師 構成: 仁科和志師 全90分収録

1. 立華の基礎実践講座  
2. 立華のレッスン・修得の実際

雑質正晃師法話集 情熱溢れる語り口と深い信心で語り続けたご法話。  
各巻 2,200円(税込)  
◆通夜法話 この悲しみを縁として  
◆通夜法話 別れは会う為にこそある  
◆抱かれてあり  
◆温もりの輪が広がる

ゴータマ・ブッダの心を語る 【講演】中村元  
CD11枚組 19,800円(税込/送料サービス)  
人間ゴータマ・シッダールタと、仏教の原点を綴る仏典から、慈悲と寛容を説くブッダの教えをわかりやすくお話し戴きます。  
1. ゴータマ・ブッダの大いなる死  
2. 仏弟子の告白・尼僧の告白  
3. ゴータマ・ブッダの言葉から 4. 浄土三部経  
5. 般若心経・金剛般若経 6. 法華経

京都市下京区七条通大宮西入  
市原栄光堂  
TEL 075(371)6843 FAX 075(371)8685

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入 Tel.075-343-0458 Fax.075-371-0458

## 法蔵館

http://www.hozokan.co.jp info@hozokan.co.jp 新刊メール配信中!  
お買上16,500円(税込)以上送料無料で表示価格はすべて税込

2024年ほのぼのカレンダー  
スケジュールの書き込みが便利な大判サイズ。 一五〇〇円

定期購読受付中  
お盆を迎える  
施本に最適!  
一三六八円  
一三〇部以上の購入で  
一部二〇〇円に割引

唯識 —— これだけは知りたい  
加藤朝胤監修 船山徹・石垣明貴共著  
「これだけは知っておきたい」と思う唯識の歴史・思想の基本を凝縮。挿画に現代を代表する美術工芸家が寄せた作品多数をカラー掲載。  
一、六五〇円

現代語訳 親鸞全集 3  
真継伸彦註釈  
親鸞聖人の全著作を網羅し、現代人が平易に読める現代語訳の決定版全5巻。第2弾、愚舎抄・念多念文意ほか「宗義・註釈」。  
【新刊】 一、四一〇円

寺檀の思想  
大桑 齊著 松金直美解説  
近世に生まれた「寺檀」の関係を近代以降にまで存続せしめたものとは何だったのか。家を基本構造とする幕藩制下の仏教思想を解明する。  
【新刊】 一、三三〇円

親鸞往生論争と  
教学の現況  
草間法照著  
近代以降の往生論争や教学のありようを再考。ステレオタイプ化した「通説」から脱却し、親鸞の実像に迫る!  
【新刊】 二、八六〇円

阿弥陀仏と浄土  
内藤知康著  
人気の授業を書き簡化!  
真宗の第一人者が、浄土真宗の教義を理路整然とわかりやすく語る。浄土真宗を学ぶための決定版。  
【新刊】 二、一〇〇円

嘆仏偈(書写用)  
真宗大谷派版  
法蔵館編集部編  
お経を書いてみたい、でも何を書いたらいいかわからない。初めての書写にオススメ! 気軽に始められる、鉛筆で書ける「嘆仏偈」。  
【新刊】 三、八五〇円